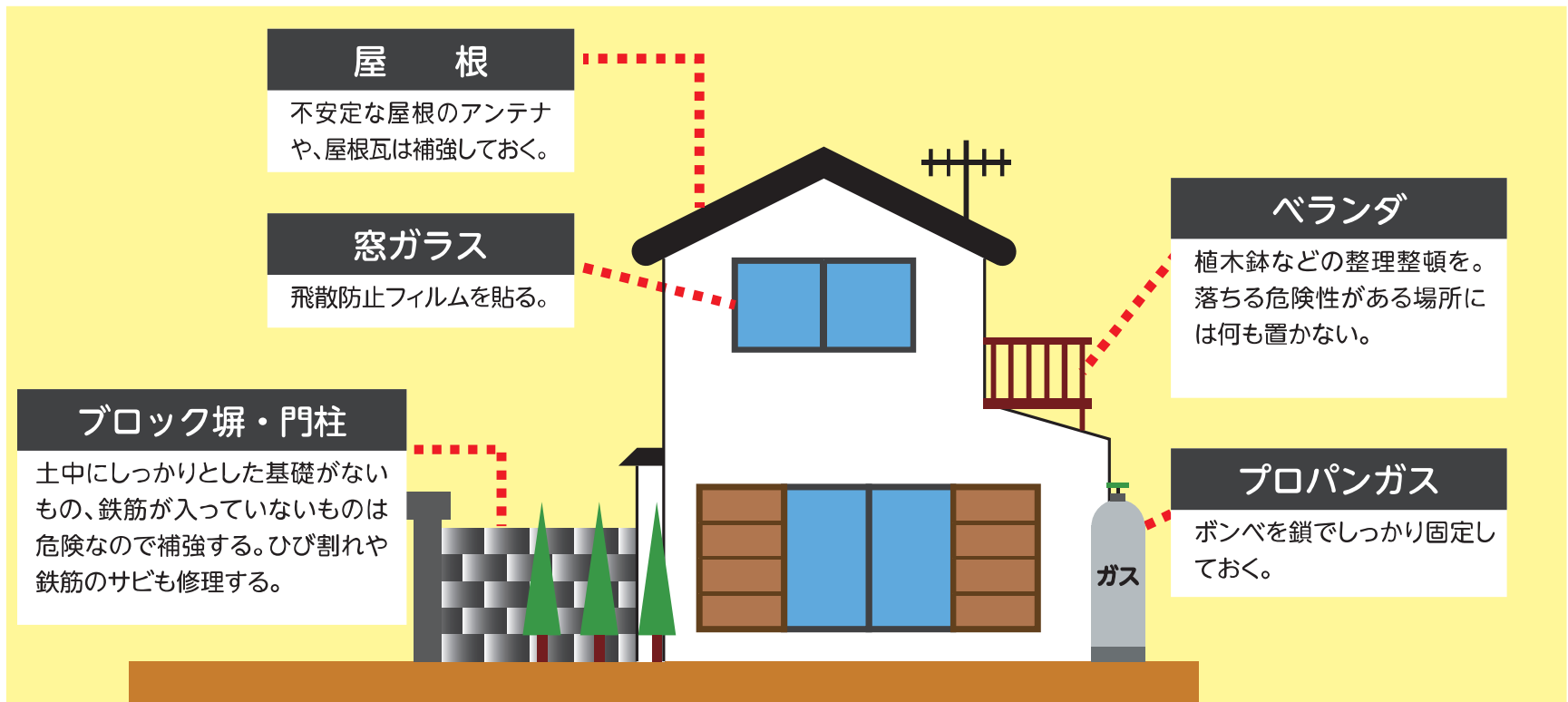


家の外の安全対策

日ごろから備えることで、地震に強い家を作ることができます。普段気づかない、戸外の様々なものに地震対策を行い、経年変化や風雪害により弱くなった箇所を修復することが重要です。早めに安全対策を行い、あなた自身と大切な家族を守りましょう。



自宅の建築年を調べてみましょう

地震の揺れによる建物被害は、揺れの強さだけでなく建物の構造、建築年次によって大きく異なります。あなたの家が安全かどうか確認しておきましょう。

- ① あなたの家は木造ですか？
木造以外ですか？

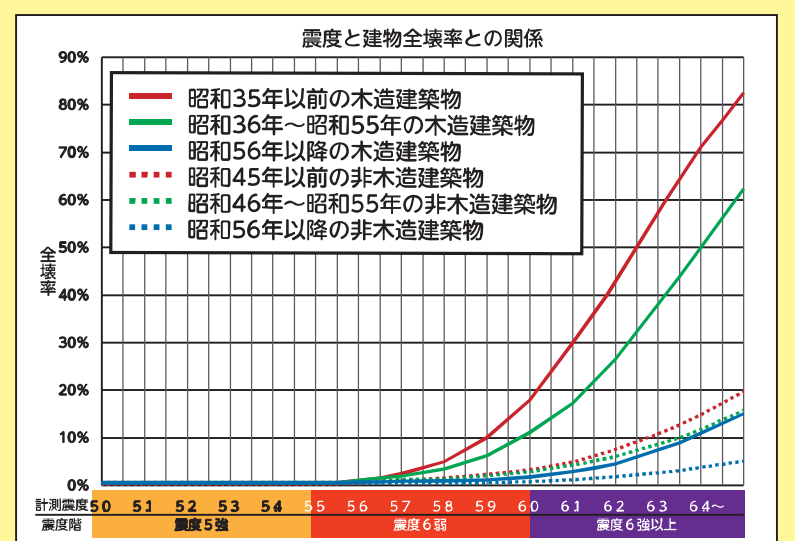
- ② 何年に建築されましたか？
(下表のどの線に該当しますか？)

種別	建築年次		
	昭和35年以前	昭和36～55年	昭和56年以降
木造建築物	———	———	———
非木造建築物

- ③ 震度分布図による震度と比較してみましょう。
(P 50 右の震度分布図 参照)

建築基準法に基づく現行の耐震基準は、昭和56年6月1日に導入されました。阪神・淡路大震災では、住宅・建築物の倒壊による大きな被害が見られました。特に新耐震基準が導入された昭和56年以前に建築されたものに大きな被害が発生しました。

左図は、阪神・淡路大震災における家屋の倒壊危険性を整理したものです。自分の家が、昭和56年以前に建てられたものかどうか確認しておきましょう。



重要 わが家の耐震診断をしよう

我が家が地震に耐えられるのかを知るために、「耐震診断」をしましょう。
倒壊の恐れがあるという結果が出た場合や不安がある時は、専門家に相談して必要な補強をしましょう。



久慈市では、木造住宅の耐震診断ならびに耐震改修工事に対する補助を行っています。詳しくは、久慈市建築住宅課までお問い合わせください。

「洪水・土砂災害への備え」(p.6)も参考にして、避難場所の確認や備蓄品の準備なども行いましょう。